

第6学年B組道徳科学習指導案

授業者 小室 真紀
研究協力者 小池 孝範
教材分析協力者 吉沢 文武

- 1 主題名 認め合う心 【B(11) 相互理解・寛容】
教材名「銀のしょく台」(東京書籍)

2 子どもと主題

(1) 子どもについて

「真心をもって」(教材名「心を形に」)の学習では、あいさつをする意味について議論していった。「あいさつをする側にもされる側にもメリットがあり、人と人をつなぐと改めて感じる。」と、あいさつがコミュニケーションの架け橋になることを改めて自覚する子どもたちであった。中に「面倒だと思いがちな自分が恥ずかしくなった。」という言葉がきっかけとなり、自分自身の日常をふり返り始める場面が見られた。

「エレベーターズエアー」の体験をきっかけに、互いに目を合わせずすれ違ったり、立ち止まって笑顔であいさつをしたりといったアクティビティを入れた後の子どもたちからは、「目を合わせないことから不安や息苦しさを感じた。今まであいさつを交わさずすれ違った人に悲しい思いをさせてしまったのかもしれない。」「心を形にすることは自分の心もきれいにしていく。」と、相手の気持ちを想像し尊重する気持ち、今の自分を見つめ直しよりよく生きたいと思う姿が見えた。

(2) 主題について

謙虚に自分の行いを見つめることによって、相手への寛容な心が生まれてくる。寛容な人とは、自分の考えとは違う考え方を受け入れたり、他の人の間違いや欠点などを厳しく責めることなく許したりすることができる広い心の人であるのだが、人は、いつでも誰にでも寛容な心で接することがなかなかできないところに、よりよい人間関係を築いていく上での難しさがある。相手の気持ちを推し測り、相手の気持ちの背景を理解した上での言動がよりよい人間関係を築いていく基盤になっていくと同時に、そこでは自分自身との対峙の仕方が鍵となっていくだろう。他の人の考え方が自分と異なり、自分の考えを強く押し通したくなる時こそ、自分がこだわる考え方や感じ方を客観的に見つめたり、自分の言動に改めるところはなかったらどうかと、心の方向を自分自身に向け、自身に謙虚に問い直したりすることが寛容さを形づくっていくだろう。

この資料ビクトル・ユーゴー作「銀のしょく台」は、ジャン＝バルジャンが19年間の刑務所生活を終え、釈放される場面から話が始まる。誰もが敬遠する中、司教のミリエルは、ジャンを温かく迎える。しかし、ジャンは銀の食器を盗んでしまう。憲兵に連行されたジャンを目の前にした司教は「銀の食器も銀のしょく台もあなたにあげたものです。どうしてもっていらっしやらなかったのかな。」と言う。ジャンの荒んだ心を慮り、自分よりも相手のことを優先させようとする気遣いが優しさとなって表れ、自身を謙虚にふり返る司教の言動は、子どもたちに気付きと感動をもたらし、自分を見つめ直すきっかけとなっていくだろう。

本主題では、司教がジャンを責めなかった理由について仲間と議論することを通し、他者の多様な考え方や感じ方に触れることで【相互理解・寛容】の道徳的価値の理解の幅を広げるとともに、自己の生き方を見つめ直し、よりよい生き方を目指していこうとする道徳性である「資質・能力」を高めていく。

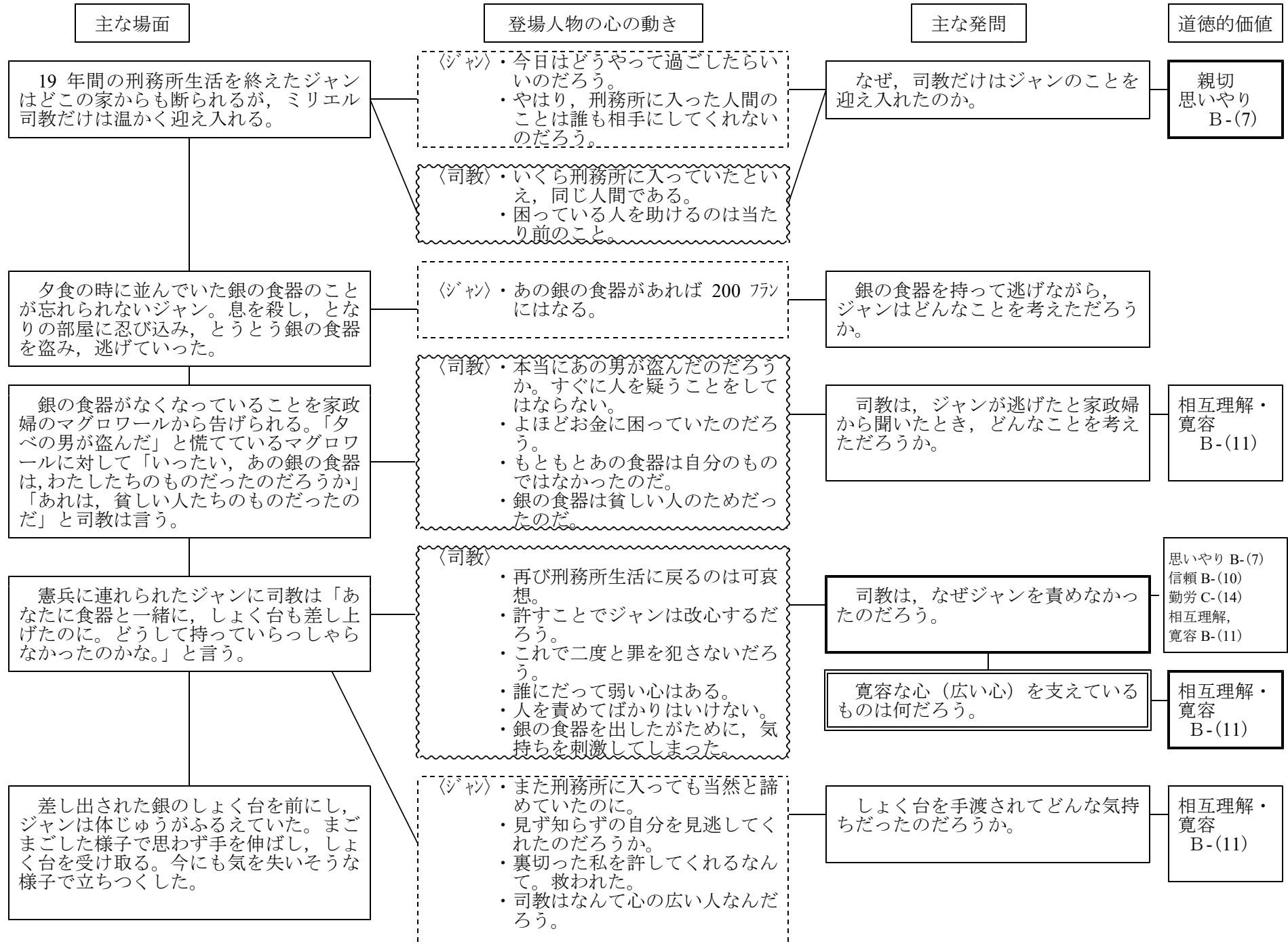
(3) 指導について

子どもたちは、印象的な場面として、憲兵に連れられてきたジャンに「銀の食器といっしょに銀のしょく台もあなたに差し上げたのにどうして持っていらっしやらなかったのかな。」と司教が言う場面を挙げるだろう。ふつうなら司教はジャンを責めてもいいだろうに、なぜ許せるのか。子どもたちから自然にわき上がった疑問をもとにした学習問題を中心に授業を構成していきたい。

司教がジャンを責めなかった理由について議論していく中で、相手の気持ちを慮る【思いやり】、相手のこれからを考え信じようとする【信頼】、社会貢献のためとなる【勤労】、過ちは誰にでもあるのだからと広い心を抱く【相互理解・寛容】といった多様な道徳的価値にふれた考え方を全体で共有していく場とする。また、議論の中で出てくるだろう、「司教が嘘をついてまでジャンを許す」という発言をもとに、司教の行為は本心からくるものかを問い直していく。

本主題で育む資質・能力を高めていくために、他の価値と比べて【寛容】が、他者ではなく自己の内面に向かう価値観であり、謙虚さを基盤として醸成されるという気付きに着目することで、寛容な生き方を支えるものは何かを自身に問い、自分が抱く【寛容】の捉えの幅を広げ、自分の生き方を見つめていく子どもの姿を期待している。

3 資料分析



4 本時の実際 (1 / 1)

(1) ねらい 司教がジャンを責めなかった理由について話し合うことをきっかけに、相手の過ちを許すということについて考え、互いの言動の背景を理解し合うと共に、自分を客観的に見つめることで、寛容な心情についての理解の幅を広げ、【相互理解・寛容】の心情を高める。

(2) 展開 ○省察を通して自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 【評価】	
3分	① 「人の失敗を許す」ことに関するアンケート結果を見る。	・「人の失敗を許す」という視点で自分を見つめたとき、自分はどんなタイプかを4段階で表すアンケート結果から、人の過ちに対してなかなか素直に許すことができない難しさに触れる。	
5分	② 「銀のしょく台」を読んで、話し合いたいことを決める。	・「銀のしょく台」を読んで印象的な場面を取り上げ、その理由をもとに話し合いたい方向性を定める。	
27分	③ 司教がとった行為について話し合う。 司教は、なぜジャンを責めなかったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふつうなら責めてもいいはずなのに、責めるどころか銀のしょく台まで渡してしまう司教の言動を不思議に感じる子どもの考えをきっかけに、話し合いの場を広げていく。 ・可能性のある理由を限りなく出す場とし、司教がとった言動の背景を共有していく。 	
	子どもの反応	司教がとった言動の背景を想像すると	道徳的な価値
	a 再び監獄に入ることになるとかわいそう	・何か事情があるのかもしれないと慮り、ジャンの今後を案じる優しさ。	【思いやり】
	b きっと改心するだろう	・ジャンのことを信じることで、相手のこれからの生き方を導くことになる。	【信頼】
	c 司教という仕事だから	・自らの仕事を全うすることが社会に貢献することになる。	【勤労】 【使命感】
	d 過ちを許すという広い心をもっている	・過ちは誰にでもある。相手の失敗を許せなかったり受け入れずいたりすることは、相手を責め続けることである。広い心をもつことが大事。	【相互理解・寛容】
	e 銀の食器を使った自分が悪かった	・自分の何気ない言動が相手の気持ちを刺激したのではないか。申し訳なかった。	【謙虚】
10分	④ 今日の学習を通して、感じたことや考えたことについて書く。 寛容な心(広い心)を支えているものは何だろう。	<ul style="list-style-type: none"> ○どの考えもあったらと認めつつ、分類し意味付けていくことで、多様な道徳的価値が内包されていることを実感できる場とする。 ○司教の心の中で最も優位性が高い考えはどれだったのかをランキングするよう促す。その結果を共有し、意見交換をする中で、a, b, cが他者に向けてのものであるのに対し、d, eが自己の内面に向かっているという気づきに焦点を当てていく。 ・資料から無理に引き離すことなく、話し合いの中で、【寛容】の道徳的価値と自分とを照らした発言になってきた頃合いをみて、【寛容】な心を支えているものは何か問いかけ、自分が大事にしたい生き方を引き出していく。 ・教人の【寛容】に照らした友達の考えをきっかけに浮かび上がってきた自分の経験や考えを小グループで語り合う場をとった上で、全体で共有していく。 	
		相手の過ちを責めなかった理由を考えるを通して、その時の自分の言動を謙虚な気持ちで振り返ることで相手や責めることなく、広い心で接していくとする寛容な心情を高める。(発言・シート)	